

「和釀良酒」で追い求めた味 酒六酒造(株)が全国8位の栄誉

全国の酒蔵が日本酒の出来栄を競う「SAKE COMPETITION 2024」純米吟醸部門で、酒六酒造(株)の『京ひな内子座』が350点中、第8位で金賞に輝きました。内子座100周年を記念して作られた銘柄『内子座』は、華やかな香り

と程よい甘さ、軽快な味わいが特徴です。代表取締役の武知直之さんは「バリエーション豊かな製品が集まるコンテストで、町のシンボルの名を冠した酒で受賞できてうれしい。内子を全国に知ってもらいかけになれば」と喜びを語りました。



「酒づくりに厳しいみんなで頑張った結果」と胸を張る従業員の皆さん

まちの駅にシェアカーを配備 町内観光の交通手段として期待



関係者がテープカットをして、真新しい車両がお披露目された

内子町で電気自動車のカーシェアリング事業が新たに始まり、セレモニーが6月25日、まちの駅Nanzeで開かれました。同事業は(株)トヨタレンタリース西四国(一)内子町観光協会、内子町が連携して実施。2人乗りの車両2台がまちの駅に設置

されました。町並みなどの名所が描かれた車両は満充電で約150キロ走行でき、観光客や町民も利用できます。試乗した小野植正久町長は「コンパクトだが乗ってみると広くて快適。活用して内子の隅々まで満喫してほしい」と期待を寄せていました。

日本文化をデザインから紐解く 展覧会で職人技の魅力を再発見

日本の暮らしに根づくデザインを取り上げた展覧会「DESIGN MUSEUM JAPAN展2024」が東京都の国立新美術館で開かれました。全国6地域のものづくりをクリエイター

の永積崇さんの声を「ささやかでもしっかり思いが詰まったものが、長く強く残っていくのだと感じた」と伝えています。作品を提供した鍔絵職人の市兼武志さん「護国」は「長年、左官として修行したが、まさか東京で紹介されるなんて夢みたい。職人たちが作品に込める遊び心を感じてもらえたらうれしい」と語りました。



1_ 出展作品を自宅で紹介してくれた市兼さん 2、3_ 展覧会の様子

300人のファンが上方落語を堪能 「桂米朝一門会内子座公演」

「桂米朝一門会内子座公演」が7月6日、内子座で開かれました。会場は花道にも席が設けられるなど大盛況。落語家5人が出演し、桂米團治さんが「質屋芝居」、桂しん吉さんが「親子酒」の演目で沸かせます。最後に登場した桂南光さん

は、故・桂ざんばさんも演じた「文七元結」を熱演しました。笑いあり涙ありの巧みな話芸に、訪れた落語ファンからは「話に引き込まれ、面白くてあつという間だった」「南光さんからざんばさんの話を聞けてうれしかった」と声が聞かれました。



左官やその娘など、数多くの登場人物の心情を豊かに表現する桂南光さん

森口博子さんが共生館で熱唱 開館30周年記念コンサート



「森口博子コンサート×ジャガーズものまねライブin内子町」が6月30日、共生館で開かれました。同館の開館30周年記念事業の一環で、宝くじ文化公演事業を活用して開催。まず、お笑いコンビ・ジャガーズの2人が登場し、人気アイドルや話題の人物のものまねを披露して会場を沸かせました。続いて歌手の森口博子さんが登場すると、場内か



(上) 美しい歌声とトークで会場を盛り上げた森口さん (下) アイドルのダンスを再現するジャガーズ

らひととき大きな歓声が上がります。ステージでは、アニメ『機動戦士Zガンダム』の主題歌となったデビュー曲「水の星へ愛をこめて」など10曲を熱唱。森口さんは「愛媛の皆さんの声援はとても温かい。来年でデビュー40周年。これからも一音入魂で歌い続けたい。皆さんの元気につながればうれしい」と来場者へメッセージを送りました。

人間国宝・吉田和生さんが語る 内子座文楽の魅力と楽しみ方

人形浄瑠璃文楽座の人形遣いで西予市出身の吉田和生さんを迎えて「内子座文楽対談」が7月2日、内子座で開かれました。内子座文楽第25回公演を前に、同実行委員会委員長の横田光敏さん、小野植正久町長が、アートNPOカコア理事長・徳

永高志さんの進行で対談。吉田さんが文楽の世界に飛び込んだ当時の話なども交えて魅力を語りました。吉田さんは「息遣いを感じる内子座独特の文楽を作り上げ、継続する皆さんの熱意が素晴らしい。難しく考えず、楽しんでほしい」と語りました。